

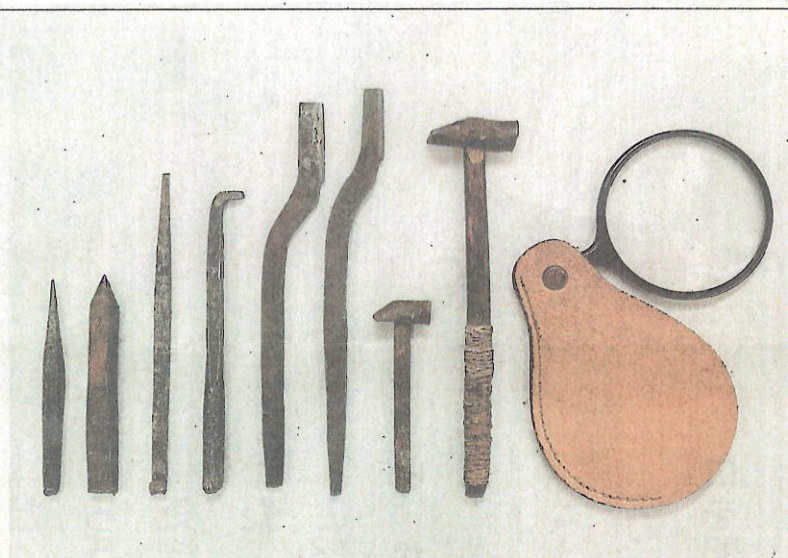
えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑬

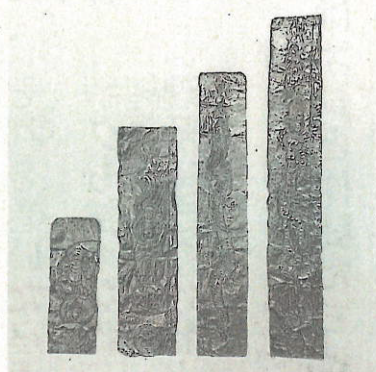
日本刀は武士の魂として 国軍総司令部（GHQ）に
尊ばれ、ご神宝として奉納 による武器の回収、製造禁止
されるなど、わが国の歴史 が命ぜられた。特に日本刀
的文化遗产として、世界に は軍国主義の象徴として回
誇る「鉄の芸術」といわれ 収され、製造することも禁
ているが、かつて日本刀の 止されたため、多くの刀鍛
歴史には受難の時代があっ 治が路頭に迷った。危機に
た。敗戦にともない、連合 直面した刀剣界において、

刀匠高橋貞次の彫刻用具

情熱伝わる刀身の彫り



⑬彫刻用具⑭刀身彫刻の型取り
＝ともに県歴史文化博物館蔵



「日本刀は武器でなく美術
品である」とする日本刀復
興運動が起き、国立博物館
（現東京国立博物館）の本
間順治博士（号は薫山）を
はじめ有志は、GHQに日
本刀の救済を訴えた。

新居郡西条大町村（西条
市）出身の高橋貞次（19
02〜68年）も日本刀の復
興に尽力した一人である。

貞次は大阪の刀匠月山貞勝
・貞一父子に入門し、36昭
和11）年に松山市右手に日
本刀鍛錬場を開設した。

50（同25）年、貞次は本
間博士のすすめで在日米軍

てる日が到来した。

今回紹介する資料は、貞
次が日本刀制作の刀身彫刻
の過程で用いた彫刻用具と
彫刻の型取りである。彫刻
用具には、ルーペ、小槌、
鑿（たがね）などがある。

鑿は手製である。彫刻の型
取りは鉛製で、大黒天、不
動明王、梵字（ぼんじ）、
龍、剣巻龍などの模様の型
があり、作品の記録用に制
作したものと見られる。貞
次は最も難しいとされる龍
の彫り物を得意とした。

貞次は語っている。刀身
彫刻は単なる刀身の装飾で
なく、「刀の彫り」というの
は信仰に結びついてこそ気
品もあらわれる」と。これ
らの資料からは、貞次の刀
身彫刻へのこだわりや、名
刀制作へのひたむきな情熱
が伝わってくる。

貞次は55（昭和30）年に、
金工部門の「日本刀」制作
技術において、全国で最初
の人間国宝（重要無形文化
財保持者）に認定された。

また、1960（昭和35）
年の浩宮（今上天皇）誕生
に際しては、御守刀（おま
もりかたな）を謹作するな
ど、現代に優れた名刀をの
こした。

（専門学芸員・今村賢司）
〈随時掲載します〉